

# 障害者福祉援助論

- これから現場に行くあなたに！ -

第1回

## 福祉の独自性とは？

千葉 晃央

これまで、障害者福祉の現場での経験を思いつくまに書いてきた。そのリアクションとしてよくいただいたのが、障害者福祉の現場に実習に行くときに読んでよかったという声や障害者福祉の現場で働くことになったときに読んで助けられたという声だった。

これから、15回を目途に体系的に進めることを試みてみたいと思う。もし自分が今からこの現場に行くのであれば、どんなことを学んでおきたいか。もしくは後輩にどんなことを伝えたいか？という思いに従い、書き始めてみたい。

### 社会福祉学独自の立場から支援する

はじめに伝えたいのは、福祉という考え方です。正式にいうならば「社会福祉学」ということになります。私はあくまで、現場目線です。そして、目指すのは利用者さんの利益です。ある事例を取り上げます。

#### 【事例】

午前中の作業時間、シール貼りの作業をしていると、突然、Aさんが立ち上がり、その場で耳をふさぎながら、何度も跳んでいます。時々、大きな声を出しています。

こんなことが現場で起こりました。その場ではしばらくすると収束してその日の支援の時間が終わりました。しかし作業後の職員連絡会で、その行動をどう理解したらよいかという声が上がりました。

作業場職員 A さん：

あれは何日もこの作業（シール貼り）が続いているからではないかな。普段している作業（ネクタイ梱包）の注文が少なく、たくさん注文のあるシール貼り作業をしているからかもしれないなあ。

作業場職員 B さん：

そういえば、朝作業場にきた時も少し頬が赤く、

熱っぽかったのかもしれない。

#### 担当職員 C さん：

昨夜新しい洗濯機が自宅に来て、気になるようで何度も洗濯機のところいき、確認をしていたとご家族から聞きました。そのため、一日のルーティーンが遅れて、寝たのが深夜の 3 時頃だったそうですよ。

#### ベテラン職員 D さん：

毎年この時期は、地域のお祭りがあって、彼の自宅の近くはいつもお神輿が置かれる場所になっています。夜まで太鼓の音や、観光客も多くて騒音がひどく、日によっては人通りが多くてもみくちゃになっているよね。昨日がその日じゃないかな。

#### 作業場職員 E さん：

あの時、そういえば彼がいつも使っている椅子を他の人が使っていて、そのことも気になったんじゃないかな。

こんなことが話し合われました。どの職員もよく見ていますし、背景を理解しています。そして、どの意見もそうかもしれませんし、そうでないかもしれません。その正解・不正解を決めることはそんなに重要ではありません。なぜなら人は、様々な刺激や作用を受けて日々を暮らしているからです。閉ざされた空間で上記のようなことしかない！と言い切れるならば、正解に近づくことは一定可能かもしれませんが（それでも無理）人は、オープンなところ（システム論ではオープンシステムといいます）で生きています。入力はあるのです。そして、ずっとその人を観察する人は

いません。そして頭の中をみることもできませんし、さらに一つの気持ちだけで動くとも限りません。つまり、人はたまたま見たテレビや隣の人の会話にも刺激を受けて生きるのです。その総合的な反応、総合的な判断で（なんとなくも含めて）時間を重ねているのが人間です。つまり、本人しかわからないし、本人にもわからないかもしれない。それが常なのです。

ただし、職員が上げた影響を与えたかもしれない一つの要素があるのは事実です。その要素がたくさん浮かぶことは、すなわち支援の手段のチャンネル数になります。では、今回はその作用を構成した要因を考えると、大事な 3 つの視点を上げます。「心理」「生理」「社会」の 3 つです。

### 心理

これはその人の心の中です。どんな気持ちだったのか。どんな気持ちがベースにあるのか。というあたりです。ここでは、椅子がいつものものではないイライラ、いつもの作業ではないことが続いた不安と残念感かもしれません。

また、心理的な発達段階での課題もベースにあることを忘れてはいけません。

### 生理

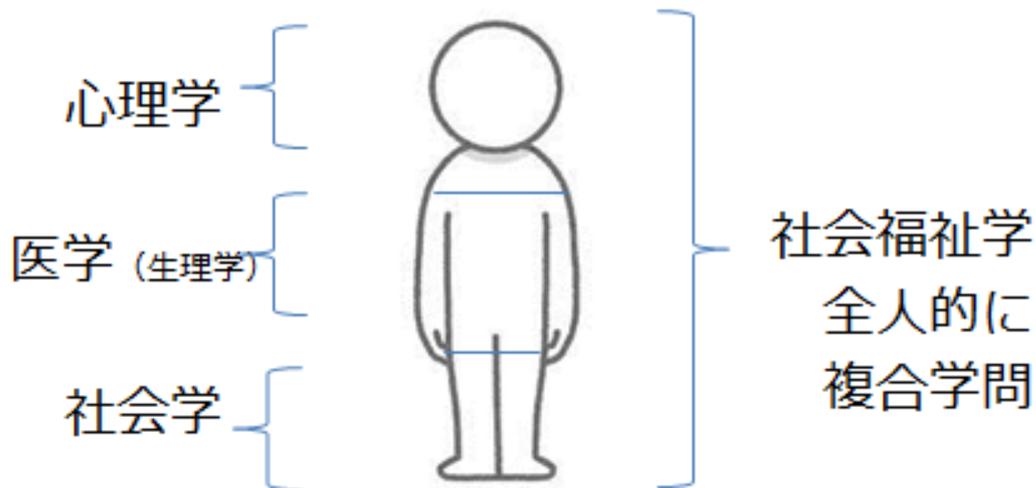
生理学、医学ともいわれる肉体的、身体的なところです。寝不足、熱っぽさが疑われる赤い顔などです。体調の面を指します。

### 社会

騒音、お祭りなどは実際の影響が生活にあることです。いつもの時間のバスが混んでいたり、すぐ着くはずの通勤経路が観光客が多くて、なかなか目的地につかなかったりとか、実際に環境とし

# 社会福祉学とは？

## 心理・生理・社会



て、いつもと違う状況があるか？などの視点です。他にも、現実的な環境だけでなく、文化的に歴史的にどういうところにおいて、どんな立場であるかななどの社会構造の意味も含まれています。

最近では「サイコ」「バイオ」「ソシオ」とも言われたりします。これは一つの行動があった時に、この3つの視点からぐらいからは、様々考えようということです。一つの行動があった時、その職場のチームでこれら3つの視点ぐらいからの考察は事例のように浮かんでくると優秀です。

即ち、ある場面をみたら、この3面からはどうかな？ということ常々考えることで鍛えられます。気持ちはどうかな？体でつらいこと、痛いところないかな？この時期はどんなことが彼の周りで起こっているかな？年齢的にどんなことを起こっても当たり前かな？…そのあたりを問いかけてたくさん浮かぶことが大切です。

できれば避けたり、少なくなったりするとよいという行動があれば、そこに変化が起こるような

作用をもたらすことができるのは、これまでに浮かんだ3つの視点です。寝不足なら静養する時間を設ける、作業環境ではいつもの椅子にしてみるなど、そこが変化のきっかけになる可能性があります。

心理・生理・社会という3つの視点でみるのがまずは福祉専門職としては求められます。できれば一つでもいいので精通していると非常に役に立ちます。心理なら心理学、生理なら医学・生理学、社会なら社会学です。そしてその3つの角度を複合的にみるのが社会福祉学の独自性といわれています。心理学でも、医学でも、社会学でもない、社会福祉学独自の視点とは、その人全体としてとらえるところにあります。それを「全人的にとらえる」という言葉で表現したりします。

心も理解し、生理学的に体のことも理解し、社会的背景、環境も理解する。それらを複合してとらえ考える。社会福祉学が「複合学問」といわれる所以です。心だけみるのではない。体だけ見

るのではない。社会環境だけをみるのではない。  
その人を全人的にとらえるのが社会福祉学の独自  
性です。

## 支援者は「理解者」になる

実際に、ソーシャルワークの理論も手法も心理  
学、医学、社会学等をベースに築かれてきていま  
す。このような視点でとらえていくプロセスを古  
くは「社会診断」といいました。今ではアッセメ  
ントといわれています。そこには、まずは対象者  
の理解が大前提にあります。人は誰でも理解され  
たいと欲求を持っています。理解をしてくれる人  
がいるだけで救われます。目の前にいるクライエ  
ントを理解する。究極はその言葉に尽きるといっ  
ていいでしょう。

理解してくれる人がいる。そこから支援は始ま  
っています。それは「証人になる」というところ  
で整理されているナラティブアプローチの考え方  
にもある通りです。あなたの頑張りを知っている  
人がいる、その証人がいるのです。

人は誰でも理解されたい。それが第1回目のポ  
イントです。支援者は「理解者」になる、から始  
めましょう。次回はかかわりの方向性のことにな  
ります。「自己実現」「言語化」がキーワードにな  
るでしょう。

## BACK ISSUES

障害者福祉は何を失ったのか？40 2020年3月

暮らしやすい地域になったのか？39

2019年12月

利用者さんの呼び方は、これでいいのか？38

2019年9月

カメラ37 2019年6月

窓を救え！36 2019年3月

別れ35 2018年12月

人生をかける意味があるか？34 2018年9月

業務の適正化はできるのか？33 2018年6月

安全衛生委員会32 2018年3月

施設というコミュニティ31 2017年12月

職場づくり30 2017年9月

健康管理29 2017年6月

音28 2017年3月

救世主になりたい援助職27 2016年12月

事件について26 2016年9月

クルマ社会と福祉政策25 2016年6月

施設が求める「障害者像」はあるのか？24

2016年3月

連絡帳23 2015年12月

におい22 2015年9月

作業着21 2015年6月

食べる20 2015年3月

通勤19 2014年12月

クスリの作用、人の作用18 2014年9月

倫理観でかたづけられる暴力17 2014年6月

触れる16 2014年3月

対談企画 「教育と福祉の連携を模索する」2014年3月

情報の格差15 2013年12月

20年前のノートから14 2013年9月

そうじのねらい13 2013年6月

個別化の暗部12 2013年3月

グループワークの視点11 2012年12月

実習生がやってきた！10 2012年9月

月曜日のせいやな9 2012年6月

所得を決める福祉職？8 2012年3月

世界とつながる社会福祉現場7 2011年12月

この現場へのたどり着き方6 2011年9月

障害を持つ友達と過ごすとは？巻末座談会

2011年9月

旅行がない！5 2011年6月

職員の脳内回路4 2011年3月

たかがガムテープ、されどガムテープ3

2010年12月

利用者が仕事上の戦友2 2010年9月

障害者自立支援法で不景気に！？1 2010年6月